

「新聞の秘密」お話を聞いて

- マスコミが被害者家族に対して「どういう気持ちですか？」など被害者遺族の気持ちを考えない質問をしたりしているという情報を目にしたことがある。今回、新聞記者がくるというので、そのような非人道的な質問をする記者に対して教育は行っていないのか、質問はその場で即時に考えているものなのかなど、様々な質問をしたいと考えていた。しかし次の時間が体育で、更衣をしなければならなかったので、質問をすることができなかった。もしまたこのような記者やマスコミの方と話す機会があれば、質問したいと思った。
- 今回、お話を聞いてよかったと思った。特に京都アニメーション放火殺人で、遺族に対してマスコミがしつこく聞いているニュースが流れていて、お金のためなら相手の気持ちも考えないのかと思ったが、遺族の気持ちに寄り添って、新たな加害者にならないように関心を持ってほしいという話を聞いて、マスコミに対する捉え方が変わった。今まで新聞記者という職業について全く知らなかったし、記者が記事を書いていると思っていたから、様々なことについて知れてよかったと思う。一つ気になるのは、深夜に大事件が起きた時、朝刊に回すのか号外にするのか気になった。
- 事故や事件の時に遺族の方や関係者の話を書いてあるのを見かけることがあるけど、記者の方は大変な思いをしながら、複雑な気持ちで取材していることが分かって、すごいなと思った。記事に名前を公表するのも、私は普通のことだと思っていたけど、遺族の気持ちを考えたら普通ではないと感じて、記者の方は大変だと思った。今日、講師の方の話を聞いたり新聞の工夫について知ることができたから、これから少しでも新聞を見てみようと思った。
- 家では新聞をとっているけど全く読んでいなかったが、あらためてしっかり見ると、いろいろな工夫がされていることが分かった。また、よくネットで「マスコミ」という単語を見かけたりテレビでは遺族のもとへ押しかけている記者やテレビレポーターを見かけたりしていたので、あまり良いイメージをもっていなかったけど、誠実に取材をしている新聞記者もあり、表面だけを見て判断したり思い込むのはよくないと思った。誠実に取材をして書かれた記事の方が信頼できるし、読みたかったと思った。
- 私は新聞記者の方に直接お話を聞いたことが本当に嬉しかったです。なぜなら老若男女に伝わる豆知識をつけたかったからです。こういう機会に話を聞いたことはよかったと思います。一つ質問があります。私は画像編集や動画編集が好きで、フォントなどとても興味があるのですが、新聞社でフォントを作られていると聞いて気になりました。
- 新聞を書いている中で考えられていることが、こんなにもたくさんあるというのは知らなかった。確かに「実名を出す、出さない」に関しては本当に難しいと思った。遺族の立場になれば、取材をされるだけでも嫌だというのに、名前まで出されるとなると怒ってしまう気持ちも分かるなと思った。しかし記事を読んでいる側からすれば、名前を知り、その人が行ってきたことなどを詳しく知りたい気持ちも分かるなと思った。誰にでも受けのよい記事というのは存在しないと感じた。
- 今まであまり新聞を見る機会がなかったけれど、ニュース番組、ネットニュースは表面的な話しか出てこないけど、新聞は記者さんが調べて細かいところまで書かれているので、より詳しく知れるなと思いました。これからは少しでも新聞に触れてみたいと思いました。マスコミに悪い印象があったけど、今日のお話を聞いて印象が変わりました。
- 私は家で新聞をとっているのですが、テレビ番組欄や一番大きな見出しの記事しか見ないので、今回の授業を聞いて、記者の方たちがどのような思いでその記事を書いたのか、考えながら隅々まで見ていきたいと思います。
- 新聞を読むのはとても面倒くさいと思っていたけど、想いが深いと知ったから、少し読んでみようと思った。

- 自分は読売新聞をとっているのですが、こうして他社の新聞と見比べると初めてのことで、よい経験だったと思います。
- 私も京都アニメーションのアニメをよく見ていて、この事件を聞いたときはショックだった。犠牲になった方々の名前を知り、この方たちが京都アニメーションにいたことが確認できた。でも一方で嫌な思いをした人もいると思うから、とても難しい問題だと感じた。
- 新聞記者の仕事内容が分かり、すごく興味をもちました。事件・事故の裏にはこんなに深いものがあるのかと思いました。こんなに気持ちを込めて取材してくれていることを考えたら、すごく感謝しています。
- 新聞一部を作るのにたくさんの手間や工夫が施されており、たくさんの人の手に新聞が届いていることを知ることができた。家族の心にこれほど深く寄り添っていることを知れて、とてもよかった。
- 新聞は普段見ることがないので、よい機会でした。朝日新聞の方はとても話すのが上手で、とても分かりやすかったです。
- 今回の講演でとても身に染みることがあった。名前を匿名にするかどうか、徹底的に社内で議論して記事をつくり上げていると知って感動した。やっぱり直接取材に行き話を聞く方が、記事に心が込めやすい。
- 恨まれることも多い中、すごく頑張って取材して下さっていると思いました。
- 普段なにも思わずに読んでいた新聞の裏側にいろいろな気持ちがあると聞いて、また新聞の見方が変わると思う。
- 新聞には様々な工夫がされていることを知り、事件に関しては新聞社なりの考えがあることも知ることができた。
- カギかっこの中に句読点を入れないことで一文字減らすなど、小さなことにも気をつけていると聞いて、すごいと思いました。ふだん新聞を見比べたりしないので、今回やってみて、新聞によって全然違っているのだと気づきました。
- 普段たまたま新聞を読むくらいで、あまり関心がない方でした。しかし今日お話を聞いて、新聞を作っている人の気持ちが今までより分かり、新聞を読んでみようと思いました。
- 新聞社の人たちはとても強い思いがあって取材をしていたのを初めて知った。取材を通して新聞に載ることで、世の中から少しでも事件・事故が減ればよいと思った。
- 事件の裏にはこのような問題もあると思うと、記者さんは大変だなと思った。
- 事件・事故に関する取材は聞きたくないものもあるかもしれないが、それでも仕事上取材して欲しいと思う。被害者の遺族も辛い気持ちであることは理解できるので、取材できないということも仕方のないことだと思う。
- 新聞はあまり読まなかったけれど、事件・事故などの際、記者の方は亡くなった家族の気持ちに寄り添って記事を書かないといけないということを知って、大変な仕事だと思った。
- 匿名にすればよくない噂などが流れるので、どういった対処をするのか。遺族のもとへ行き、お話を聞くことは、新聞を書く側としても辛いことがたくさんあって、難しい仕事だと知った。また遺族の話を聞くことができなかった場合、記事に実名を載せるのか。
- 遺族の方の小さな意見でも取り上げることができるというのは、地域に密着している新聞ならではのと思った。
- 遺族に会いに行き話を聞いてくれる新聞記者の方々のおかげで私たちはニュースを知れるからよいなと思った。
- 今日の授業で新聞社の方々があるような気持ちで取材しているのかとてもよく分かったし、知れてよかった。